

平成 23 年度第 1 回京都市図書館協議会摘録

- 日 時 平成 23 年 11 月 16 日 (水)
10 時～12 時 30 分
- 場 所 京都市生涯学習総合センター 3 階 第 4 研修室 A
- 出席委員 [10 名中 9 名出席]
大角 安史 委員
岡田 優子 委員
五島 邦治 委員
高越 恵美子 委員
直江 秀樹 委員
永田 信一 委員
寺内 里香 委員
正木 隆之 委員
山内 康敬 委員 (五十音順)
- 傍聴者 なし

1 開会

- (1) 委員紹介
- (2) 中央図書館長の挨拶
- (3) 会長・副会長の選出
会長に五島委員を選出，副会長に直江委員を選出。

2 報告事項

事務局から資料に基づき，以下の項目について報告した。

- (1) 図書館利用状況等について
 - ・昭和 56 年に京都市図書館条例が施行され，中央図書館が開館。開館当初から夜間開館を実施。昭和 59 年の京都市図書館整備中期計画に基づき，図書館を整備。施設の面積 700 m²以上，蔵書 6 万冊以上，1 行政区 1 図書館の設置を基本に整備を進め，平成 9 年の醍醐中央図書館の開館をもってこの計画は完了した。さらに山間部や利用しにくい遠隔の地域には移動図書館車を運行。
 - ・利便性の向上面では平成 14 年に京ライブラリーネットを構築，全館インターネットでの検索が可能になった。平成 15 年に全館祝日開館実施。平成 18 年にインターネットによる予約サービスを開始。平成 19 年 4 月に全館夜間開館実施。平成 19 年 10 に携帯電話によるインターネットサービスを開始し，飛躍的に利用が増加した。
 - ・総貸出冊数の推移は平成 15 年度に前年度比 12.2% の増加。京ライブラリーネットを再

構築し、図書館情報を発信したことによる利便性の向上が増加の理由と考えられる。平成 20 年度は前年度比 11.9%の増加、総貸出冊数は 700 万冊を突破。右京中央図書館の開館により、多くの市民の方に利用していただいた。

- ・予約件数は平成 18 年度に前年度比 56.7%の増加。インターネットによる予約サービスを開始したことにより、急激に増加した。また、予約件数のうちインターネットでの予約は平成 18 年度は約 5 割、平成 22 年度は約 8 割を占めている。
- ・ブックメール運搬冊数も平成 18 年度に大幅に増加。入館者数も増加しており、登録者数は人口比にして 29%。
- ・市民の生活圏に図書館がまだまだ入っていない実態があり、広報活動の一環としてパンフレットを発行している。「京都市図書館からのお知らせ」を博物館や美術館等に配布している。博物館や美術館での展覧会で、関連する本が図書館にあり、本でも学ぶことに役立てていただきたい。併せて図書館でも、展覧会に関する資料のミニ展示をしている。

(2) 京都市図書館の特徴ある取組について

① 学校との連携について

- ・子ども達によりよい読書環境を整えるため、学校との連携は重要な課題であり、京都市図書館としても「支援事業」、「出前事業」、「受入事業」の 3 つの柱を軸に様々な事業を実施している。
- ・今年度は新たに、先生方を対象としたブックトークの研修を行った。この研修は、子ども達と人間関係を築いている教師から本を紹介されることで、子ども達の本への興味を、より強く引き出すことに繋がると考えて実施した。
- ・中学 2 年生になるとチャレンジ体験といういわゆる職場体験学習が実施される。学校によってはその事前学習として、各事業所を学校に招き生徒に仕事内容を紹介するという取組を行っているが、図書館にもその機会があり、司書の仕事等の説明をした。その時に、学校からの依頼で、語りを二話させていただいた。読書離れの傾向にある中学生に、絵も何もない語りが受け入れられるか不安はあったが、子ども達は真剣にお話を聞いていた。その後、子ども達から感想が寄せられ、お話に興味を持ち楽しんでもらった様子がうかがえた。この経験はヤングアダルト分野への取組の一つの手掛かりとなった。

② 保育所・植物園等との連携について

- ・他機関との連携の目的は、図書館から発信している情報を図書館に足を運ばない人にも得る機会を作る事と、各機関が持っている専門性が融合することで、より質の高いサービスが提供できる事と考えてる。
- ・昨年、国民読書年記念事業として植物園とのコラボレーション事業を実施したが、好評を得たので今年度も引き続き実施する予定。

- ・今年 6 月から保育所との連携で、年長児を対象に毎週 15 分ほどの語りを中心としたお話会を実施している。これは、今年度から始まった新学習指導要領にも取り上げられている「言語力の育成」に共感した取組で、子ども達がお話を耳から聞きイメージする力を養うことで、読書の基礎づくりを目的としている。また、聞き手と語り手がひとつのお話を共有することで、コミュニケーション能力も高めていると感じる。

③ 東北地方新聞の配架について

- ・東日本大震災で被災し、京都市内に避難されて来られた被災者の方に、地元の情報を提供するため、また、京都市民の方にも現地の情報をより詳しく知っていただくため、東北地方の新聞 3 紙を毎日取り寄せ配架している。新聞は被害が最も大きかった岩手県、宮城県、福島県の 3 県で、最も発行が多い地方新聞を選定して取り寄せている。この取組は利用者数の多い中央、右京中央、伏見中央、醍醐中央の 4 中央館の図書館で実施している。
- ・地元のことについては地元の新聞が、最も詳細、的確に情報が掲載されており、被災者の方に積極的に地元の情報を提供することで図書館としての役割を果たす取組となっているのではないかと考えている。

(3) 中央図書館 30 周年記念事業について

京都市図書館が開館して 30 年を迎え、司書の経験の積み重ねを活かした事業を実施できればと思い、10 月 22 日、23 日、29 日に記念事業を実施した。

- ・10 月 22 日（土） 「食育」をテーマにした講演とブックトーク（京の食文化）
- ・10 月 23 日（日） ストーリーテリング、オリジナル音楽物語「鶴の恩返し」
- ・10 月 29 日（土） よし笛コンサート

KBS 京都テレビ、市政広報番組「京のまち」の放映

（概要は開館 30 周年を迎える中央図書館の充実したサービスやおすすめの図書、30 周年記念イベントの紹介等）

3 報告事項に関する質疑応答

意見： 図書館は昔は敷居が高い場所だと思っていたが、今は低く、利用者を受け入れる体勢があると思う。

本を持って帰る時の袋を提供してはどうか。例えば、市民の方に袋を募集してみてもどうか。市民の方とのコミュニケーションにも繋がると思う。後もう一步のサービスをしていただきたい。

東京へ行った時に被災者の方の話を伺ったことがあった。他府県から京都に来ると、京都の方は受け入れてくれるだろうか、どう馴染んでいいのだろうかと言っている方がいた。同じ日本人として被災者の方の情報や、話を聞けるような場があれば良いと思う。東北の資料を集めたり、東北フェアという様な形で、被災者の方と京都の方との

コミュニケーションの場を図書館で作っていただきたい。

京都の伝統や文化は、京都に住んでいても知らないことが多く、それを知るとより深く京都を好きになるのではと思い、子ども達にも伝えたいと思った。図書館は伝統工芸の職人の技術等の資料を収集して保存している場所なので、職人の方とコラボレーションして何か取組ができないか。

意見： 図書館の利用統計を見て、利用が伸びていることに驚いた。逆に言うと高齢化が進んでおり、高齢者の世代の利用が増えているのだろうか。図書館の利用で年代別に統計があるか教えてほしい。

回答： 年代別は把握していない。インターネットの予約が増えており、インターネットに馴染んでいない高齢者は少ないかもしれない。来る人は高齢者が多く見受けられ、中高生は少ないが、必ずしも来た方が本を借りるわけではない。

意見： 今どんな世代の方が来ているか、世代を把握した方が良い。青少年施設とコラボレーションして、何かできればと思う。今図書館に来ているのは使いやすい人達で、図書館を使いにくい人達に対して何ができるか考えていただきたい。

意見： 「京図ものがたり」は面白い。もっと分かりやすいタイトルで見やすくしてはどうか。美術館等に配布している図書館からのお知らせのチラシも良い。本のタイトルだけでなく、本の表紙の写真も載せて目を惹き、手に取りたくなるような工夫をしてみてもどうか。図書館は活気があり、生涯学習に役立っているが、若い人や忙しい人にもどのようにしたら図書館に来てもらえるだろうか。美術館だけでなく映画館にもチラシを配布し、若い人と共有し、図書館を広げていけたらいいと思う。

意見： 利用状況を見ると、利用者数は伸びているが登録者数は伸びていないなど、何をターゲットに何をしていくのかがぼやけている。何をもち役立つ図書館と考えるのか、何を目指しているのか教えてほしい。

回答： 色々な方がそれぞれ課題を持っており、解決するための資料や学ぼうとしていることに関連する資料が図書館には必ずある。役に立つというのは、それぞれの方が課題に思っていることに対して、解決するために、きっと図書館が役に立つだろうということ。まだ図書館が生活の中に入っていない方に、図書館には役に立つ資料がたくさんあるので、そのような方にも図書館を利用していただけることを目標にしている。

4 協議事項

(1) 他機関との連携について

<事務局から協議事項について説明>

図書館の使命は、市民の皆様と資料を結びつけ役に立てていただくこと。最近では学校や様々な施設との連携にも力を入れており、コラボレーションを取ることで、益々資料を活用していただければと思っているので、図書館と様々な施設との連携について、ご意見、ご提案をいただき、今後の運営に反映させていただきたいと考えている。

意見： 市の埋蔵文化財の報告書が図書館に置いてあったが、一般の人がそれを見ても専門的すぎてどう読んでいいかわからないと思う。京都の図書館の周辺には文化財があり、その場所の発掘調査のデータがある。誰かが媒体となり、利用者との信頼関係を元に本をうまく利用できるコーディネーターのような専門的な人が加われば良いと思う。図書館で文化財の活かし方が変わってくるのではないか。

老人福祉センターとの連携で講座を開催することがある。お年寄は知識力を持っており、自分で図書館で調べてから文化財等を見ている。その時にも媒体が必要だと思うので、連携して何か企画してはどうか。

意見： 中高生に、京都の職人のことや京都にはどんな仕事があるのか、知るきっかけが必要だと思う。京都には歴史があるので、昔の時代に生きた人達のことや歴史をもっと学べたら良いと思う。図書館には伝統芸能と繋がる資料があるので、何か事業ができればと思う。

意見： 図書館からのお知らせで、北野天満宮のずいき祭のチラシがあるが、これは美術館や博物館との連携と違っておもしろい。どの様な関係で配布したのか。

回答： 神社等、伝統的な場所にもチラシを置かせていただいております。京都の伝統芸能や文化に関する資料もあるということを知っていただきたいと思っています。

意見： インターネットを利用して検索ができるようになった事等で利用者数が増えており、広がった読者層を大事にしていきたい。

図書館同士の連携や返却ポストの設置により利便性を高めているが、さらに需要が見込めるところに、例えば、老人ホーム、病院、大企業等に広報し、直接図書館に足を運べない人達に本や資料を届けるサービスをしてはどうか。

学術的な面で、資料価値の高い本を増やしていく事は重要だが限界があると思うので、近隣の府県と連携して京都市でも本を取り寄せ、借りれるようにしていきたい。

図書のサイクルが早くなっており、読みたい本が絶版で古書店でしか手に入らないことがある。残す価値のある本を収集し、大事にしていきたい。

図書館からのお知らせは非常に有効だと思うが、本のタイトル、著者、出版社のみしか記載されていないのが残念だ。本の内容の紹介も追加すると手が伸びるのではないか。

意見： 中学生にも読み聞かせ等をされていると思うが、まだまだ機会が少ないと思う。中学生であっても絵本を読むと心に響く面もあるので、中学生にももっと働きかけをしていただきたい。小学校や幼稚園だけでなく中学生、高校生にも読み聞かせ等をしていけたらいいと思う。年配の方にも本を読める様な場があればいいと思う。

意見： 何かを調べる時に、インターネットが有利になっていくと思うが、その時に図書館は豊富な資料を集めるだけで良いのだろうか。新たな機能が必要だと思う。資料を提供するだけでなく、もう一步踏み込んだ何か連携ができればおもしろいと思う。

意見： 図書館では話をしてはいけない、静かにしないといけないというイメージが強い。
本を読んで感想等を話せ、意見交換ができる場所があればいいと思う。

意見： 図書館に来なくても生きていけるが、困った時にどう調べたらいいか分からなかったらつまらない。知っているとうれしかったり喜びを感じられるということを、子どもうちに知ってもらう事が大事だと思うので、小学生、中学生の頃から本の読み聞かせをすることが大切だと思う。教師も学校の図書室をどの様に活性化すればいいか悩んでいる。子どもと携わっている教師に力量がないと読み聞かせなどはできない。学校に司書の方に来ていただき、去年は読み聞かせを、今年はブックトークの研修会をしていただいた。参加した教師は非常に喜んでおり刺激を受けていた。このような研修会を一回きりではなく続けていただきたい。

何もする事がなければ本を読む、要するに身近に本があれば読む。京都の町のどこに行っても本があるとすると、本が身近な物になると思うので何かその様な取組があればと思う。